数 訂 【 現 行

9. 雨水排水

屋根等に降った雨水は雨水管により屋外排水設備に排水する。また、ベランダ等の雨水も同様にまとめて排水する。雨水管は、汚水排水管や通気管に接続すると雨水が器具からあふれたり、トラップ封水が破れたりする恐れがあるので、避けなければならない。合流式下水道区域では、雨水系統と汚水系統をなるべく下流側のますで会合させることが望ましい、なお降雨時に管内空気がトラップに及ぼす影響を十分考慮すること。合流式下水道区域、美園・南町・幌向・上幌向・大和やその他の軟弱地盤区域では、

合流式下水道区域、美園・南町・幌向・上幌向・大和やその他の軟弱地盤区域では、 ます蓋に通気防水型のエアキャップの使用を検討すること。

設計に用いる最大雨水量は、岩見沢市の最大降雨量52.1mm/時間から定めるものとする。雨水量を算定するときには、屋根面積は水平に投影した面積とし、壁面に吹き付ける雨水でその下部の屋根などに流入する場合は、外壁面の1/2の面積を下部の屋根面積に加える。

9. 雨水排水

屋根等に降った雨水は雨水管により屋外排水設備に排水する。また、ベランダ等の雨水も同様にまとめて排水する。雨水管は、汚水排水管や通気管に接続すると雨水が器具からあふれたり、トラップ封水が破れたりする恐れがあるので、避けなければならない。合流式下水道区域では、雨水系統と汚水系統をなるべく下流側のますで会合させることが望ましい、なお降雨時に管内空気がトラップに及ぼす影響を十分考慮すること。 会流式下水道区域、美閣・南町・幌向・上幌向やその他の軟品地般区域では、まず美

合流式下水道区域、美園・南町・幌向・上幌向やその他の軟弱地盤区域では、ます蓋 に通気防水型のエアキャップの使用を検討すること。

設計に用いる最大雨水量は、岩見沢市の最大降雨量 5 2. 1 mm/時間から定めるものとする。雨水量を算定するときには、屋根面積は水平に投影した面積とし、壁面に吹き付ける雨水でその下部の屋根などに流入する場合は、外壁面の 1 / 2 の面積を下部の屋根面積に加える。

1

R6 給水装置工事設計施工要綱 新旧対照表

改訂	現 行
廃止	
	公共ます・設置・移設・深さの変更依頼書
	令和 年 月 日 (受 付 No.)
	様 申請書 住 所 氏 名 印
	次のとおり公共ますの設置、移設、深さの変更を依頼します。
	排水設備工事業者名
	担当者名、電話番号
	理 由 由
	期 間 令和 年 月 日~令和 年 月 日まで
	負担区分※

R6 給水装置工事設計施工要綱 新旧対照表

改訂	現 行
様式第3号 (第6条関係) 課 長 係 長 係	様式第3号 (第6条関係) 課 長主 幹係 長 係 受付番号 様
番号	人 番号 年度 便器数 人口 資金種別1.貸付金2.補助金3.自己資金水道番号
資 金 種 別 1.貸付金 2.補助金 3.自己資金 水 道 番 号	世界 1. 資刊金 2. 補助金 3. 日ご賞金 小 道 番 芳 設 置 場 所 業 務 番 号
設 置 場 所 業 務 番 号	
所有者氏名 施工業者名	所有者氏名 施工業者名
使用者氏名 責任技術者氏名	使用者氏名 責任技術者氏名
工 種 1. 改 造 2. 新 築 3. 変 更 排水設備 4. 建 替 5. 浄化槽廃止 6. 雑 排水設備 家屋種別 1. 個人住宅 2. 店 舗 3. 店舗併用住宅 4. アパート 5. 公共施設 6. 法 人 7. その他 申請年月日 年 月 日完了年月日 年 月	
助成交付決定額 円 使用料賦課 年 開 始 年 月	
工事費內訳表	工事費內訳表 工事費內訳表 工事費內 最
工 種数量単位見積額 精算額 備 排水設備工水洗便所改造工 冷化槽廃止工付帯工 小計器経費 計 産廃手数料 大工工事~床のみ、全面床壁(腰高m)電気工事~ 有・無砂利厚~ cm	# 水 設 備 工 水洗便所改造工 浄 化 槽 廃 止 工 付 帯 工 小 計 産 産 手 数 料
度 所 子 奴 村 設計審査手数料 計×1% しゅん工検査手数料 計×2.5% 合 計 計 消費税額 総	設計審査手数料 計×1% しゅん工検査手数料 計×2.5% 合計 計 消費税額 総計